

目賀田大使のスピーチ

本日、御列席の皆様と共に、この名高い大学での柔道の練習を促進するための柔道の引き渡し式に出席できることを大変喜ばしく思います。

特に、当時学長であったマエゾノ氏から手紙を受け取ってから、何ヶ月もの後、最終的にこの寄贈が最終的に実現したことを嬉しく思います。

この99枚の畳の引き渡しという特別な場で、この寄贈を可能にした2人の人物の名前を挙げないわけにはいきません。このお二人への私の深淵なる謝意を表したいと思います。まず、元大使で私の上司である小川郷太郎氏は、以前から存じ上げておりますが、現在は柔道連盟の国際委員も務められておられ、ご自身も7段の柔道家です。また、柔道連盟の理事・強化委員で、1984年ロサンゼルス五輪で金メダルを獲得された山下泰裕氏の多大なご尽力についても強調したいと思います。山下氏は、柔道の普及と柔道による国際交流を推進する「柔道教育ソリダリティー」というNPOの理事長も務められています。

小川大使の仲介により、山下氏が困難且つ多大な努力のもと、寄贈者を見つけてくださり、寛大にもラ・モリーナ農業大学の要請を受けてくださり、費用の半分を負担して、99枚の畳をペルーに送っていただきました。

今日、国際柔道連盟の加盟国は199ヶ国になり、ペルーはもちろんそのうちの一つです。柔道がペルーで広く普及しており、色々な地域で様々な年代の人々によって実践され、今日では、オリンピックでペルーを代表するような熟練した若者がいることを喜ばしく思います。

柔道を実践することにより、礼儀作法及び対戦相手を尊重することを学ぶことができるので、柔道は日本の精神を象徴しています。一方で、柔道は「柔よく剛を制す」という面白い哲学に基づいた武道であり、スポーツです。このため、柔道は文字通り、「柔らかい道」を意味します。これは社会のあらゆる分野に応用できる考え方であり、この大学の学生がより活発に柔道を練習し、この畳を適切に維持していってくれるよう期待しています。

最後に、このプロジェクトに協力してくださったすべての人々に再度感謝の意を表すると共に、さらに日本とこの大学の友好協力関係が学術・文化交流を通じて強化されることを祈願いたします。